

## 5. 執筆者紹介

石見 清裕（いわみ きよひろ） 早稲田大学教育・総合科学学術院教授

早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程単位取得退学

【著書・論文】『唐の北方問題と国際秩序』（汲古書院、1998年）、『唐代の国際関係』（山川出版社、2009年）、「唐とテュルク人・ソグド人—民族の移動・移住より見た東アジア史—」（『東アジア世界史研究センター年報』第1号、2011年）、「唐の内陸アジア系移住民対象規定とその変遷」（森安孝夫編『ソグドからウイグルへ—シルクロード東部の民族と文化の交流—』汲古書院、2011年）、「梁への道」（鈴木靖民・金子修一編『梁職貢図と東部ユーラシア世界』勉誠出版、2014年）、「『天聖令』と唐のソグド人」（森部豊編『アジア遊学 ソグド人と東ユーラシアの文化交渉』175、勉誠出版、2014年）、「鈴木靖民・金子修一・石見清裕・浜田久美子編『訳註日本古代の外交文書』（八木書店、2014年）、「中国・山西太原の政治文化的背景」（新川登亀男編『仏教文明と世俗秩序—国家・社会・聖地の形成—』勉誠出版、2015年）

堀 哲郎（ほり てつろう） 宮城県栗原市教育委員会

専修大学大学院 文学研究科 博士後期課程

【著書・論文】「鉄製板状鏡板付轡における銜留金具の諸相」（『専修考古学』第14号、2012年）、「馬具のあり方からみた伊那谷についての一考察」（『古文化談叢』第70集、2013年）、「鉄器」（土生田純之編『古墳の見方』ニューサイエンス社、2014年）、「千葉県松戸市竹ヶ花古墳の再検討」（『松戸市立博物館紀要』第21号、松戸市立博物館、2014年）

張 允禎（Chang YoonChung） 韓国・慶南大学校 文科大学 歴史学科 教授

韓国・東亜大学校大学院史学科考古学専攻修士課程修了・文学修士

日本・岡山大学校大学院文化科学研究科博士課程修了・文学博士

【著書・論文】「韓半島三国時代の轡の地域色」（『考古学研究』50-2、2003年）、「日本列島の鏡にみる地域間関係」（『考古学研究』51-3、2004年）、「韓国固城松鶴洞古墳出土馬具に対する検討」（『朝鮮古代研究』6、2005年）、「韓国における馬具研究の成果」（『古代武器研究』6、2005年）、「清州新鳳洞古墳群出土鑣轡に関する研究」（『先史と古代』24、2006年）、「古代馬具からみた韓半島と日本列島」（同成社、2008年）、「古代韓日出土有機質製鑣轡に関する研究」（『文物研究』16、2009年）、「東アジア鑣轡の構造的分析和展開」（『文物研究』18、2010年）、「遺物副葬様相からみた三国時代における梁山地域の古墳文化」（『東北亞文化研究』28、2011年）、「動物副葬様相からみた北匈奴の埋葬習俗—モンゴル地域を中心として」（『文物研究』22、2012年）、「古代東北アジアにおける動物埋葬行為に関する研究—韓半島と中国内

蒙古地域を中心に―(『石堂論叢』56、2013年)、「馬具からみた韓半島と中国東北地方の交流」(『文物研究』25、2014年)、「匈奴古墳出土の銀製装飾といわれる杏葉に関する研究」(『中央アジア研究』20-1、2015年)

川本 芳昭 (かわもと よしあき) 九州大学大学院人文科学研究院教授  
九州大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学

【著書・論文】『魏晋南北朝時代の民族問題』(汲古書院、1998年)、『中国史のなかの諸民族』(山川出版社、世界史リブレット61、2004年)、『中華の崩壊と拡大―魏晋南北朝』(講談社、2005年)、『東アジア古代国家論―プロセス・モデル・アイデンティティ』(編著)(すいれん社、2006年)、『東アジア古代における諸民族と国家』(汲古書院、2015年)

田中 史生 (たなか ふみお) 関東学院大学経済学部教授  
國學院大學大学院文学研究科博士課程後期修了、博士(歴史学)

【著書・論文】『日本古代国家の民族支配と渡来人』(校倉書房、1997年)、『倭国と渡来人』(吉川弘文館、2005年)、『越境の古代史』(ちくま新書、2009年)、『国際交易と古代日本』(吉川弘文館、2012年)、「倭の五王と列島支配」(『岩波講座 日本歴史』第1巻、岩波書店、2013年)、田中史生編『入唐僧惠曇と東アジア―附惠曇関連史料集―』(勉誠出版、2014年)

馬 雲超 (Ma Yun-chao) 南京大学中国思想家研究センター研究員  
南京大学歴史学院中国古代史専攻卒業・修士

【著書・論文】「五行徳運与冠位制度―「冠位十二階」次序問題新探」(『史林』2015年第6期、上海社会科学院歴史研究会)、「東亜視野下の百濟人祔軍墓志―以「日本余嚙」和「僭帝称臣」为中心」(『唐史論叢』21輯、三秦出版社、2015年)、「「仁如鳳、戦如龍」―読『炎鳳朔龍記：大唐帝国与東亜的中世』」(『国際漢学研究通説』第10期、北京大学出版社、2015年)、『宮崎市定亜洲史論考(宮崎市定アジア史論考)』(共訳、上海古籍出版社、2016年刊行予定)

窪田 藍 (くぼた あい) 専修大学図書部図書課  
専修大学大学院文学研究科博士後期課程修了

【著書・論文】「新たに発見された入唐日本人「井真成」墓誌とその初歩的研究」(共訳、『東アジア世界史研究センター年報』第2号、2009年)、「『異国牒状記』所載の「牒状」について―「文武天皇慶雲二年」の「牒状」の解釈を中心として―」(東アジア世界史研究センター年報』第5号、2011年)、「日本古代の「危機」意識―「急速大事」時の情報伝達をてがかりとして―」(『専修史学』54号、2013年)

高久 健二（たかく けんじ） 専修大学文学部教授

韓国・東亜大学校大学院史学科博士課程修了

【著書・論文】『楽浪古墳文化研究』（学研文化社、1995年）、「楽浪郡と三韓」（西谷正編『韓半島考古学論叢』すずさわ書店、2002年）、「韓国の倭系遺物」（『国立歴史民俗博物館研究報告』110、2004年）、「楽浪・帯方郡埴室墓の再検討」（『国立歴史民俗博物館研究報告』151、2009年）、「楽浪郡と三韓の交易システムの形成」（『東アジア世界史研究センター年報』第6号、2012年）、「楽浪郡と三韓・倭の交流関係」（『弥生時代政治社会構造論－柳田康雄古稀記念論文集』雄山閣、2013年）、「新たに報告された楽浪室墓に関する考察」（高倉洋彰編『東アジア古文化論攷 = Studies in East Asian archaeology and history part 1』中国書店、2014年）、「平成26年度韓国・三国時代百済関係資料調査報告」（『古代東ユーラシア研究センター年報』第1号、2015年）

飯尾 秀幸（いいお ひでゆき） 専修大学文学部教授

東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学

【著書・論文】『中国古代社会史論』（共訳、名著刊行会、1997年）、『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008年）「中国古代の法と社会」（『岩波講座 世界歴史』第5巻、岩波書店、1998年）、「中国古代における個と共同性の展開」（『歴史学研究』729号、1999年）、「中国国家史研究は進んだか」（『歴史学研究』782号、2003年）、「中国古代における人の移動とその規制に関する基礎的研究」（『専修大学人文科学年報』37号、2007年）、「雲夢睡虎地・荊州張家山調査報告記」「中国古代土地所有問題に寄せて」（東洋文庫中国古代地域史研究編『張家山漢簡『二年律令』の研究』東洋文庫、2014年）